

ビッグイシューで絆取り戻す

北区 常設店の山崎さん 交流増え

山ちゃんファン SNSで応援

路上生活者の自立を支援する雑誌「ビッグイシュー日本版」を岡山市で販売している山崎安則さん(66)を、客たちがインターネットで紹介する応援が広がっている。岡山市は全国的にも珍しいビッグイシューの常設販売店があるが、まだ認知度が低く、売りに上げに直結しているとは言い難い。ツイッターでエールを送る岡山大工学部2年、前川真理奈さん(21)は「ビッグイシューは記事による知識だけでなく、人とのつながりも与えてくれる。もっと広がってほしい」と話している。

【前本麻有】

「ありがとうございます。またお茶でも飲みに立ち寄って」。岡山大に近い北区津島の交差点に面する店舗で、山崎さんは笑顔で客を見送った。

昨年10月1日から、年末年始も含めて1日も休まずビッグイシューを売っている。1冊300円で販売し、1600円が収入となる。かつて学生寮として使われていた建物に住む山崎さんは、所有者の配慮もあって家賃は月1万円だが、楽な支払いはない。アルバイトとして、JR岡山駅前の駐輪場整理に月10日間、うどん屋に週1日出勤している。

島根県で育ち、高校卒

ビッグイシューを販売する山崎安則さん(左端)の人柄ひかれ、店は客たちが談笑する交流の場になっている。北区津島南1で

業後は県外の自動車メーカーに入社。秒単位で作業の成果を求められ、機械のように管理される状況に耐えられずに退職した。進路に理解が得られず、家族とも縁を絶った。

「昔は店に飛び込んで、な」と出会い、ビッグイ

『使ってください』と頭を下げたら、履歴書がなくとも「明日から来て」と雇ってもらえた。以来、職も居場所も転々としてきた。「人間関係を絶つようにして生きてきた。気ままな分、生活は苦しい。社会や誰のせいでもなく自分の責任」。

「ビッグイシューと今日」の山ちゃんを開発。前川さんも「国内外の社会問題や海外スターのインタビュー記事など内容が充実していて、世の中を知らずの学生にびったりの雑誌」といい、ツイッター、

か、銃刀法違反容疑で逮捕されたことも。所持金を駆使して、「ここに来ると山ちゃんをはじめ、他世代の人(客)とつながれる」と交流を深めている。

親の介護で岡山市に帰郷中の古萩祐蔵さん(64)「京都府でも山崎さんと出会い、自身のブログで記事を発信している。パソコンやスマートフォンを持たないビッグイシューの販売者にとって心強い。すると、開始当初は1日1冊しか売れない日もあったが、今では10冊以上売れることも。それでも収入は1600円程度だ。山崎さんは60歳まで人との関わりを絶ってきた自分が、お客さんとの出会いを楽しんでいる。一度でも立ち寄ってくれる人が増えたらうれい」と語り、今日も店に立つ。

ビッグイシュー

ホームレスの自立に向け、1991年に英国で発行が始まり、日本では2003年9月に大阪で創刊した。人気歌手レディー・ガガ、俳優レオナルド・ディカプリオ、将棋の羽生善治棋士やダウンタウン・松本人志さんら、国内外の有名

人らが表紙を飾り、インタビューや社会問題、音楽、映画、コラムなど幅広い記事を掲載。日本では現在、15都道府県で毎月1、15両日の2回発行。路上生活者が販売者登録し、駅前やデパート前など街頭に立つて売るのが基本。

た。人気歌手レディー・ガガ、俳優レオナルド・ディカプリオ、将棋の羽生善治棋士やダウンタウン・松本人志さんら、国内外の有名